

## 中大蔵山周辺のシロヤシオ

### (ゴヨウツツジ)群生地の保護活動について

#### 1 シロヤシオ(ゴヨウツツジ)

シロヤシオは、清楚で上品な白い花が咲き、枝先には車輪状の葉が五枚（五葉）であることから名前の由来となったものであり、皇室の敬宮愛子内親王殿下の「お印」として知られている。

この分布は、岩手県以南から四国の太平洋側の 24 都県に生息地しており、静岡県浜松市天竜区京丸岩岳山（1369m）には、国指定の天然記念物の「シロヤシオとアカヤシオの群生地（5000本）」がある。また、田中澄江は、福島県の大滝根山、神奈川県檜洞丸のシロヤシオを花の百名山にしている。

栃木県内の分布は足尾、奥日光、釈迦ヶ岳、大入道山、長者岳、南月山、白笹山、八汐ダム周辺、八溝山、佐野、中大蔵山などにみられる。

#### 2 那須町中大蔵山周辺のシロヤシオ(ゴヨウツツジ)群生地

中大倉山自然観察教育林の群生地には、3万本程度のシロヤシオが生育しており、なかには根元径 20cm 以上、樹高 5m 以上での大木にもなると林齢が 300 年を越える老木が点在している。

#### 3 シロヤシオ(ゴヨウツツジ)の群生地にみられる立ち枯れ

この現象はモミ、広葉樹の高木が繁り、林内が暗いところほど目立っている。一方、林内が明るくシロヤシオ(ゴヨウツツジ)の立ち枯れが見られないところでは、モミや広葉樹が少なく、下層植生にはマイヅルソウやギボウシが豊かである。

立ち枯れの原因として、近年、伐採(炭焼き、薪、用材)利用がなくなり、モミや広葉樹が生い茂り、それがシロヤシオ(ゴヨウツツジ)を被圧し、林内照度低下による光合成力の低下が起因している。



良好なゴヨウツツジの群生地

#### 4 平成 20 年度、シロヤシオ(ゴヨウツツジ)の保護活動の評価

平成 20 年 1 月 20 日風雪のなか「シロヤシオ(ゴヨウツツジ)群生地の生育環境を保全するための立ち枯れ対策と中大倉山自然観察教育林への入込み者の安全確保を促進する。」ことを目的として、下記の保護活動をお

こなった。

(1) 遊歩道周辺の安全確保

枯損木、風倒木の処理、歩行に危険な枝の除去。

- (2) 遊歩道周辺の笹の刈出しによる高山植物の回復
- (3) シロヤシオの保全に影響のある小径木等の除伐
- (4) 展望広場等観察箇所にあつては周辺の樹木を整理し、眺望の改善。



ゴヨウツツジの立ち枯れ

その保護活動の効果として

- (1) 中大倉山自然観察教育林周辺の歩道利用者の安全が向上した。
- (2) 歩道からの閉塞感がなくなり、森の奥行き、林内感が改善し、新緑等の森林景観も向上した。
- (3) シロヤシオ(ゴヨウツツジ)に光が当たり、花芽が増加した。林内に光が入り、林床の高山植物の生息環境が向上した。
- (4) このことから利用者の自然にふれあう感動と癒し効果が向上した。また、地域の人たちが「シロヤシオの群生地」を知ることになり、その保護と利用に関心が高まってきている。



平成 21 年 11 月 20 日、保護活動のための現地検討会と 5 月 27 日 実施後の状況

5 平成 21 年度、シロヤシオ(ゴヨウツツジ)の保護活動

- (1) 昨年に引き続き立ち枯れ対策を行い、新たに本数調査を企画する。
- (2) ボランティア等の除伐作業で処理できない、モミ等の被圧木、景観に支障のある木の伐採は、塩那森林管理署が企画・実行する。

6 保護林の設定に向けた取り組み

中大蔵山周辺のシロヤシオ(ゴヨウツツジ)の群生地は、全国的にみて広さ、本数の多さ、古木の多さなど他の群生地と比し、例がないと思われる。

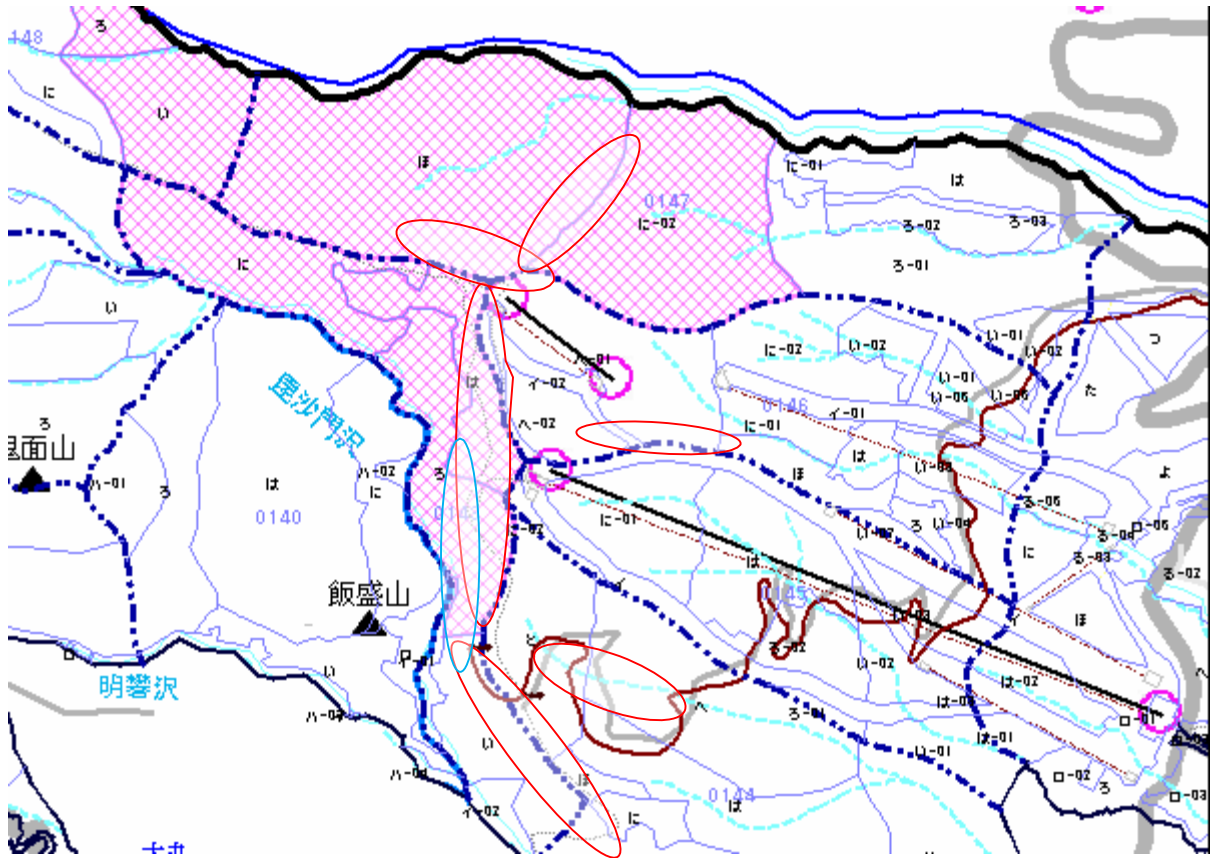
よって、保護林の設定の取り組みを行い、その結果を明らかにする。

# 位置図

所 在: 那須町大字大島字中大蔵山付近

面 積: 15ha以上

対象地: 143 林班い、ろ、は、に、ほ小班の一部、144 林班へ、と  
146 林班へ、ほ、147 林班に、ほ



分布域

作業地

調査予定地